

Leica AP20 AutoPole が令和 5 年度の ICT 土工/舗装工の出来形管理要領に対応可能

～施工性向上、気泡管を気にせずに傾けて計測～



【2023年4月28日 東京】計測テクノロジー業界のリーダーであるライカジオシステムズ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:日比孝典)は、傾斜補正機能を備えたプリズムオートポール Leica AP20 AutoPole (以下 AP20) が国土交通省の「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 令和5年3月版」に新たに追加され、土工編及び舗装編内のそれぞれ面管理/断面管理にて TS 光波方式(傾斜補正機能付きプリズムを使用する場合)にて対応可能になったことを発表しました。

AP20 の特徴

- ・ 傾斜補正技術: IIMU の採用により、電磁障害を排除し、プリズム計測時にポールを垂直に保つ作業が不要
- ・ ポールハイト: AP20 専用のプリズムポールを使用する事で、変更したプリズム高の値が自動で専用フィールドアプリへ入力反映
- ・ ターゲット ID: ID 付与された AP20 のみを自動検索し、他のプリズムへの誤認識を排除

AP20 の使い方・利用シーン

- ・ 現況測量として利用が可能

- ・ 他の計測器で取得できなかったデータへの補足測量として利用が可能
- ・ ICT 活用工事において施工中の進捗管理や出来形管理へ利用が可能
- ・ 小規模現場では起工測量での活用見込み
- ・ Leica 製トータルステーションと組み合わせて利用

AP20 は従来通りプリズムポールを鉛直にして利用する事も可能ですが、起伏の激しい現場でプリズムポールを鉛直に立てる事が困難な場合なども斜めに傾けて計測が可能とな為、作業スピードを飛躍的に向上させます。この特徴を生かし、更に専用フィールドアプリ内の「表面検査・ロードランナー・DTM 杭打ち」等の情報化施工向けのアプリと組み合わせて使用する事でより効果的な活用が見込めます。

【「AP20」製品概要】

NETIS 登録済み技術

- 名称： 傾斜補正機能付きプリズムオートポール
- NETIS 登録番号： QS-220048-A

Leica Geosystems – when it has to be right

およそ 200 年にわたり計測・測量の製品および技術で変革を生んできた Hexagon のグループカンパニーであるライカジオシステムズは、世界中のプロフェッショナルに向けてトータルソリューションを開発しています。革新的な製品とソリューションの開発で知られているライカジオシステムズは、地理空間情報の利活用において、航空宇宙、防衛、安全、セキュリティ、建設、製造など、実に多岐にわたる業界のプロフェッショナルから信頼を得ています。ライカジオシステムズは高精度で正確な機器、洗練されたソフトウェア、そして信頼できるサービスで、社会の発展に貢献していきます。

Hexagon は、センサー、ソフトウェア、自律型テクノロジーを組み合わせたデジタルリアリティソリューションの世界的リーダーで、世界 50 ヶ国におよそ 23,000 人の従業員を擁し、総売上高は約 43 億ユーロです。詳細については [hexagon.com](https://www.hexagon.com) をご覧ください。Twitter で [@HexagonAB](https://twitter.com/HexagonAB) をフォローしてください。

プレスリリースに関するお問い合わせ先:

ライカジオシステムズ株式会社

マーケティング部 PR 担当: 保川

東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 18 階

Tel: 03-6809-3901

marketgeo.jp.tok.geo@leica-geosystems.com